

ID No.	224
研究課題名	秋田県における成人T細胞性白血病の分子疫学・分子病理学調査
研究代表者	後藤 明輝 (秋田大学大学院・教授)
研究組織 受入教員 研究分担者	村上 善則 (東京大学医科学研究所・教授)
研究報告書	
症例の収集・臨床病理学的検討 過年度に引き続き、秋田県内各病院の過去20年の解剖例を参照し、計21例のATL症例を見出した。そのATL病型の分布は全国調査とほぼ同様の傾向を示す。以降の分子疫学、分子病理学的調査を行うに必要な症例を蓄積したものと考え、症例の収集は今年度（3年計画の2年目）で終了することとした。 分子疫学的検討・マイクロRNA異常の検討 過年度、ATL病理解剖例でvimentinなど保存状態のマーカーとなるタンパクに対する免疫組織化学を施行し、各例で免疫組織化学が安定的に施行可能であることが確かめられた。今年度はCADM1免疫組織化学を行った。CADM1はいずれの症例でもATL細胞に強陽性像から中等度陽性像を示す（図1）。 図1：成人T細胞性白血病のCADM1免疫染色像（左図：強陽性像、右図：中等度陽性像） この結果は、Sasaki Hらによる宮崎県症例での検討結果を秋田県症例でも裏付けるものである(Sasaki H <i>et al</i>, <i>Blood</i>,105, 1204-13, 2009)。また、組織レベルでATL細胞でのCADM1発現を確認した初の検討であり、ATLの臓器浸潤傾向を考えるうえでも興味深い結果と考える。 HTLV-1 サブタイプ検討のための凍結保存検体の検索は過年度に引き続き行っている。 われわれは、CADM13'UTR 配列と直接結合し、その発現を抑制するマイクロRNA候補として、miR-214/199a-5p と miR-375 を同定している (Ishimura M, <i>et al</i>. <i>J Cancer Therapy</i>, 3, 379-387. 2012)。各症例につき、これらのマイクロRNAの発現量の測定を施行中である。 CADM1異常の検討 上記の病理解剖例につき、CADM1プロモーター領域のDNAメチル化解析を引き続き施行中である。	